8

Collection of Songs for Primary Schools and Homes.

童謠唱歌名曲全集

田村虎藏·福井直秋·小松耕輔·共編

第四卷

東京 京文社 刊行

EDITION·KYOBUNSHA·TOKYO

昭和七年

E13720455 梅澤 敬一 2023/10/21 01:13:27

60. ゆたけき秋

犬童球溪 歌
外國曲

悦ばしく【♩=112】

1. コムガルネルサスズメヨロダコノイビネテソタヨカクヒクゼニクウこたミタへがねもチリはの
2. あこめれもかぜがきくもとるきをしみにをかだちてあえたるたまの

ソラハキヨクキハスミテ
ミルモキクモココチヨシ
きけやたみのよろこびて
うたふうだのこゑごゑを

ヲチーノモリノヤシーロニハハ
をちーのもりのやしーろにはは

タノカゲモナビキテタタクタイコサワガシ
たのかげもなびきてふえのおともきこゆる

稍淋しげに【♩.=

I mp
1. サカ
2. ここ
3. オモ

II mf
ヲチコ
たくみ
チトセ

III
ニゾ
つか
カサ

想を込めて【♩=

I mf
1. ナーッ
2. かーへ

II
アース
つーき

III
トモ
とも

F1372045 5 柏澤 敬一 2023/10/21 01:13:27

五一 木曾川

青柳善吾歌並曲

一 信濃の深山に　春や來ぬる
散りにし花瓣　波にうかぶ
矢よりも早き　瀬下る筏
たちまち流れて　影はかすか。

二 月さし昇りて　城影映え
川水みどりに　風は涼し
一葉の小舟に　わが世のせて
歌ふもたのしや　ローレライ。

三 夕日はかくれて　山は黑み
白帆はうすれて　水は暗し
鵜舟か篝り火　はるかに見え
舷うち音　闇にひゞく。

五二 夕燒を見る兒

窪田空穗歌
弘田龍太郎曲

一 暮ゆく空の　一とゝころ
くれなゐ深く　夕燒けし
我が家の庭の　青桐の
青葉をもりて　さしきたる。

二 我が懷に　いだかるゝ
生れて間なき　みどり兒は
いぶかしげなる　瞳して
見るやうつらふ　夕燒けを。

三 見よ美はしき　天地に
生れ出でしと　思はずや
消えんとぞする　夕燒けは
赤くも照らす　汝が顏を。

五三 夕の鐘

小野三竹歌
メンデルスゾーン曲

一 故郷いそぐ　雲居の雁
花より出づる　夕の鐘。

二 村雨霽れて　白帆の影
磯馴れの松に　夕の鐘。

三 尾上の鹿の　友呼ぶ聲
もみぢ葉さそふ　夕の鐘。

四 木の葉の時雨　降りしく庵
雪げのそらに　夕の鐘。

五四 夕の鐘

吉丸一昌歌
フォスター曲

一 昔の人　いまや何處
おとづれ來て　たゝずめば
たそがれ行く　空をたどり
通ひて來る　鐘の聲
家鳩の　羽ばたきに
亂れて消ゆ　軒のつま。

二 翠の風　岸をそよぐ
川のほとり　さまよへば
たそがれ行く　野路を越えて
おとなひ來る　鐘の聲
牧の子が　笛の音に
消えては行く　村はづれ。

五五 蜻蛉

鈴木素風歌
平岡均之曲

一 入陽に赤き　うろこ雲
唐黍ばたけ　風落ちて
しづかにせまる　飛行機か
蜻蛉は群れて　空に飛ぶ。

二 破れし軒根の　コスモスは
冷き風に　搖るゝなり
夏をとむらふ　ものきぬか
おはぐろ蜻蛉　ひくゝ飛ぶ。

五六 夕映

佐々木信綱歌
ネーゲリ曲

一 夕日の山　もみぢ葉は
紅ひとしほ　にほふ。

二 夕日の海　行く船は
白帆も赤くぞ　見ゆる。

三 夕映こそ　いろ〳〵の
中にも優れし　色よ。

五七 秋の野

久保田宵二歌
池尻景順曲

一 吹く朝風に　さそはれて
秋の野原に　來てみれば
桔梗かるかや　をみなへし
むらさき匂ふ　藤ばかま
みなとりどりの　花の色。

二 吹く夕風に　さそはれて
秋の野原に　來てみれば
すゞ虫まつ虫　くつわ虫
ころ〳〵こほろぎ　きりぎりす
さてにぎやかな　虫の歌。

五八 近江八景

教育唱歌集

一 三井寺のかねの音　すみ渡る夕暮
はつ雁も堅田に　聲たてゝ落ち來ぬ
ひとり立てる　唐崎の老松
雨か波か　淋しげに響くは。

二 今もなほ　身に泌む
粟津野の　あき風
いづかたぞ昔の　兼平のいしぶみ
瀨田の夕日　とこしへにさびしく
比良の暮雪　いつみても美し。

三 月のかげ　さやかに
すみのぼる　石山
千代かけてしのぶは　紫のその筆
やまだ矢走　みえ渡る名どころ
さしてかへる　舟の帆も三つ四つ。

五九 樂しき農夫

吉丸一昌歌
シューマン曲

一 小鍬を　肩にかたげ
とぼ〳〵たどるや　野らみち
小鎌を腰にさして　夕暮歸るや川端
よひ月　すでに明し
小牛よ　いざや急げ
妻子も待ちてや　詫ぶらん
かなたの　森のあかり
あれこそ　我が家のともし火。

二 刈穗を　馬に乘せて
たのしや夕べを　たどれば
み空に雁は　鳴きて
うれしや　月影出でたり
のどけき　御世のさまや
いづこか　村まつりの
太鼓のしらべも　きこえて
たらりや　たらりたうと
川邊の水瀨に　落ち來る。

六〇 ゆたけき秋

犬童球溪歌
外國曲

一 黃金さらす　小田の稻
そよぐ風に　波たち
群るゝ雀　よろこびて
高く低く　うたへり
空は淸く　氣はすみて
見るもきくも　心地よし
遠の杜の　社には
旗のかげも　なびきて
たゝく太鼓　さわがし。

二 雨も風も　時を得て
小田にあまる　黃金は
これぞながき　苦しみに
かちて得たる　たまもの
開けや民の　よろこびて
歌ふうたの　こゑ〳〵を
遠の杜の　社には
旗のかげも　なびきて
笛の音も　きこゆる。

黃金の波　涯てしも知らぬ　海原
沖には白帆　三つ四つ。

四四 乃木大將

吉丸一昌歌
小松耕輔曲

一 夢より淡き　三日月の
大內山に　かぐろひて

三 雲よ影よ人は多く　迷へど
我は斯くて　後の榮待たまし。

四六 月と母

西條八十歌
中山晋平曲

一 優しきものは　夜の月
とはに曇らぬ　一すぢの
淸き光を　はなちつゝ

四 照らすか月影　父ます墳を
おもへば身にしむ　幼き汝が
行末いかにの　今はの御言。

五 打連れ鳴連れ　雁こそ渡れ
いづこの山越え　里越え來しか
はや影幽かに　月たゞ更けぬ。

四八 小菊

みそはに侍りて　絲繰る姉と。

二 軍の樣の　嚴めし猛し
宜し怖る　敵は
思へばもとは　同胞・親族
おなじ國のみ民
世のためには　身を殺す
勇ましや　雄々しや
人たるものは　斯ぞあらん
勇ましや　雄々しや。

E13720455 梅澤 敬一 2023/10/21 01:13:27

昭和七年一月廿一日印刷
昭和七年一月廿七日發行

◇豫約出版◇ 童謠唱歌名曲全集
第四卷・豫約價 金貳圓八拾錢

編纂者 東京市牛込區築土八幡町三一 田村虎藏
編纂者 東京市外長崎町荒井一八八四 福井直秋
編纂者 東京市外杉並町阿佐ヶ谷四八五 小松耕輔
發行者 東京市神田區淡路町二ノ二 鈴木芃
印刷者 東京市芝區金杉新濱町一二 單式印刷株式會社 代表者 和田助一

發行所 東京市神田區淡路町二ノ二 振替口座 東京 八二二六番 京文社 電話神田(25)三九〇番 三九二番

E13720455 梅澤 敬一 2023/10/21 01:13:27